

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門・“はじめの一步”部門」

まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	「障がいのある子どもと障害者への包括的支援を考える」		
団体名	障がいのある子どもの父母のネットワーク愛知		
提案の活動を行う地域	名古屋市内 および愛知県内		
提案の内容	<p>障がい児者への包括的な支援をめざしシンポジウム開催と拠点マップをつくる。</p> <p>① シンポジウムの開催 「障がいのある子の学齢期～思春期、そして将来を見据えて」</p> <p>障がい児の成長していく過程を、療育(幼少期～学齢期)、思春期、就労、成人期の暮らしという成長に沿った側面からしっかり検証する。そのため、療育、思春期、就労、成人期のそれぞれの時期に携わる実務者や学識者をシンポジストに招き、各ステージにおいて障害児とその家族に本当に必要な支援や大人(保護者や支援者など)側の意識を探り検討する。そして、障害児者が、より豊かに暮らし自立していける社会を目指すための方策やシステムづくり、地域との変わり方等を考える。</p> <p>また、午後からは講師と参加者で交流をして意見や情報交換をしながら、現状と今後について考えていく。</p> <p>参加者は障がい児者の保護者、療育・保育関係者、特別支援教育関係者、障がい児者福祉サービス事業所の職員、学識者、学生などを広く募り、それぞれの立場から課題や想いを出してもらい、包括的な支援について語り検討していく中で、学校や地域、家庭でどんな支援や制度があればいいのか検討する。</p> <p>② 拠点マップの作成と配布</p> <p>名古屋市内で障がい児者が安心して気軽に利用できる民間施設(お店・公園・遊び場・娯楽施設・乗り物等)を本人や保護者・介護者などの当事者目線で集め、マップとして作成し希望者やお店などに配布する。特に、障がいのある方が働くお店や施設、企画しているイベントなどを中心に紹介し、まちの中で自立したり活躍する障がい児者をPRし、地域の理解や協力、配慮をより促すものとする。</p>		
活動期間	平成25年4月～平成26年3月	助成金交付申請額	24万円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感 が得られる活動か
<p>(提案活動の必要性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。) ※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。</p> <p>当団体は、2011年に都市センターまちづくり助成を受け「障がい児の愛と性の講座」を行ったが、思春期の学びの場がとても少ないことから多くの応募と反響を得た。しかし、障がい児者には丁寧なスモールステップの学びが必要であり、思春期の学びはもちろん就労支援もコミュニケーション能力もやはり幼少期から少しずつ積み上げていくことが大切であると実感している。</p> <p>現在、名古屋市では障害児者福祉サービスが広く浸透し始め、療育センターや保育園で幼少期を、特別支援学校や学級等で学齢期を過ごしながらもサービスを併用する子どもも多く、彼らの育ちの中に家庭以外のさまざまな施設や事業所、そして他人が多く関わるようになった。1人の障がい児者にあらゆるタイプの支援が入るようになった訳だが、それらがきちんと連携し合い一人一人に一貫した教育や支援がなされているとは言い難い現状がある。また保護者も福祉サービスに依存している傾向も見られる。学びや経験の積み重ねが重要な障がい児者に、幼少期から成人までの包括的な支援ができるよう大人側が意識し考え、実行していくことが求められている。</p> <p>障がい児者や保護者などが利用できるバリアフリーガイドは普及してきているが、地域で自立し活躍する障がい児者の働くお店や施設を広く紹介したものの名古屋市内版はなく、当事者への理解や配慮を促すものとはなっていないものが多い。</p>	
審査基準② 独創性	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか
<p>(提案活動の独創性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムでは、これまで年齢や障がい別で区切られて考えられてきた現状と支援を幼少期～成人期という1人の人の育ちをトータルに考えていくという視点で開催する。これにより、将来を見据えた教育や支援をいつからどのようにしていくのかを考えられるようになり、保護者と学校や支援機関、支援者との連絡や繋がりをしっかりしたものにするきっかけとなる。 ・マップは当事者目線での構成と、地域で頑張り自立し社会参加している障がい児者を紹介するものでもあり、理解や配慮が広がるツールの一つとなりうる。 	
審査基準③ 実現性	<ul style="list-style-type: none"> ・提案内容が具体的になっているか ・事業予算は妥当か
時期	活動内容
平成25年4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	事務局会議① 講師依頼、スケジュールの検討 マップのデザイン、中身、取材方法についてデザイナーと打合せ① シンポジウム講師と打合せ① 事務局会議② 資料づくり等 シンポジウム 開催 マップづくりのための取材、アンケート配布と集約 事務局会議③ 事務局会議④ マップ情報の集約作成 デザイナーと打合せ2回
平成26年1月 2月 3月	マップ完成 マップの宣伝や配布 事務局会議⑤

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書(ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。)

活動項目	内訳	金額(円)
別紙aとおり		
計	都市センター助成金 円 自己資金 円 ()	

審査基準④ 発展性 ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか
・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか

(提案活動の発展性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)

- ・就労や社会参加、また思春期を迎えるための準備や心構えなどを保護者が学ぶことで、家庭での子育てに見通しや希望ができ、育児不安解消などに繋がる。
- ・障がい児者本人の育ちと暮らしをトータルで考え、それを保護者と支援者たちが共有することで、本人への支援や教育が整理され必要なサポートが明確になっていくことが期待される。また、そのことで本人へのアプローチにも一貫性が保たれ本人の安心に繋がっていくと思われる。
- ・支援内容の問題点や発達課題への対応などを、保護者や支援者の共通の理解の上で見直し・検証ができるようになり、支援者のスキルアップが見込まれ質の良いサービスが実施できるようになる。
- ・拠点マップにおいては、当事者目線と情報、口コミ等で構成することで当事者や介護者がより安心してマップと掲載施設を利用でき、活動範囲が広がる。
- ・障がい児者の活躍の場や様子が地域に広く知られて、彼らへの理解や協力が深まり、自立支援がスムーズにいくことや彼ら自身の世界も広がることが期待できる。

審査基準⑤ 活動実績と主体性 ・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか
(団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。)
・具体的にどんな熱意を注いでいるか

※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。

※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。この場合、公正を期するため、A4判3枚(両面)までを限度とさせていただきます。

団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。

当団体は、1998年に設立以来、障がい児とその家族の支援、様々な親の会や団体、個人を繋ぐことを活動の柱としています。障がい児者の「就学」「思春期」「制度について」「障がい児のきょうだいたちにつて」の4つを主なテーマとして、学習会やシンポジウムなどを開いていますが、いずれもどの地域でもどの障がい児者の方にも共通するテーマであることから、市内全区、また市外、県内外の会員が集まって活動しています。事務局員の子どもたちが成長し思春期や就労期を迎えるにあたり、幼少期から将来を見据えた子育てや教育、サービスの使い方を学び実践することの重要性を実感し、年齢や障がい種別で区切られがちな支援の流れをしっかりと検証し、個々の成長にあった本人と家族支援を探っていきたく考えている。

※第2号様式は、3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とします。

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書

活動項目	内訳		金額(円)
シンポジウムの開催	講師謝金	講師謝礼金 30,000×4名	120,000
		ボランティア謝金 5,000×2名	10,000
	使用料賃借料 資料印刷費 消耗品 交通費	会場使用料	1,600
		コピー用紙、製版代、	2,000
		USB、インク代、文房具など	8,000
		講師旅費 1,000×4名	4,000
		ボランティア旅費 1,000×2名	2,000
		事前打合せ(講師)1,000×4名×1回	4,000
		事前打合せ(事務局)900×5名×1回	4,500
		事務局交通費 900×5名×5回	22,500
		通信費 案内・アンケート送付 80×200	16,000
		その他 保険代・飲み物代	3,500
		謝金 マップデザイナー謝金	40,000
		印刷費 マップ印刷	50,000
交通費 デザイナー打合せ 1,000×3回	3,000		
	デザイン打合せ(事務局)900×5名×3回	13,500	
計	都市センター助成金	240,000 円	304,600
	自己資金	64,600 円()	